

# 平成20年度事業報告書

社団法人瀬戸内海環境保全協会

## I 一般事項

### 1. 会議等の開催

(1) 通常総会（平成20年5月21日 ラッセホール）

① 受賞者表彰（瀬戸内海環境保全月間ポスター公募最優秀賞等）

最優秀賞（環境大臣賞）

内部 清美 東京都

優秀賞（瀬戸内海環境保全協会会長賞）

子供部門 三好 詩乃 愛媛県 北伊予小学校1年生

一般部門 苧坂 早紀 香川県 高松工芸高等学校2年生

② 総会議事

- ・平成19年度事業報告及び収支決算
- ・平成20年度会費
- ・平成20年度事業計画及び収支予算
- ・国に対する要望
- ・理事の補欠選任

(2) 理事会

① 第84回理事会（平成20年5月9日 ラッセホール）

- ・会員の入会承認
- ・専門委員会委員の委嘱
- ・通常総会付議事項

② 第85回理事会（平成21年3月18日 ラッセホール）

- ・職員就業規則の一部改正
- ・職員給与規則の一部改正
- ・平成20年度収支予算の補正
- ・平成20年度事業実施状況
- ・平成21年度事業計画案及び収支予算案

(3) 専門委員会等

① 企画委員会

第83回企画委員会（平成20年6月20日 兵庫県農業共済会館）

- ・平成20年度事業について
- ・会費の見直しについて
- ・瀬戸内海を「里海」として再生するための法整備について

第84回企画委員会（平成20年7月16日 兵庫県民会館）

- ・会費の見直しについて

②調査委員会（平成21年2月6日 ホテル北野プラザ六甲荘）

- ・平成20年度底質サンプル評価方法検討調査について

③編集委員会

第1回編集委員会（平成20年7月8日 兵庫県民会館）

- ・協会総合誌「瀬戸内海」第50号について
- ・協会総合誌「瀬戸内海」第51～53号の原稿収集について

第2回編集委員会（平成21年1月27日 兵庫県民会館）

- ・協会総合誌「瀬戸内海」第54号について
- ・投稿原稿及び委員等からの情報提供について
- ・協会総合誌「瀬戸内海」第55～57号の原稿収集について

④賛助会員事業部会（平成20年7月10日 兵庫県民会館）

- ・平成20年度賛助会員に関する事業計画について

事業部会：関西電力(株)、川崎重工業(株)、(株)神戸製鋼所、マツダ(株)、四国電力(株)  
総合科学(株)、山口県瀬戸内海環境保全協会

(4) 参事・事務局長並びに担当課長会議

①第1回（平成20年8月6日 国際健康開発センター）

- ・会費の見直しについて

②第2回（平成20年9月10日 ラッセホール）

- ・会費の見直しについて

③第3回（平成21年3月3日 ラッセホール）

- ・平成20年度事業実施状況について
- ・平成20年度収支補正予算（案）について
- ・平成21年度瀬戸内海環境保全普及活動推進事業について

## 2. 専門委員の委嘱

企画委員、調査委員、編集委員を委嘱した。

(1) 企画委員（13名）

葉山 幸雄	大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課長
築谷 尚嗣	兵庫県農政環境部環境管理局水質課長
長谷 茂夫	広島県環境県民局環境部環境保全課長
合田 順一	香川県環境森林部環境管理課長
渡邊 克廣	大分県生活環境部環境保全課長
大石 一裕	大阪市環境局環境保全部土壌水質担当課長
菅原 通直	神戸市環境局主幹（水環境保全担当課長）
小林 吉一	高槻市環境部環境政策室環境保全課長
桑木 孝二	倉敷市市民環境局環境部環境政策課長

森友 信	山口県漁業協同組合常務理事
宮本 寿	愛媛県漁業協同組合連合会専務理事
岡崎 進	(社) 大阪エイボリューションネットワーク事務局長
岡本 利貴	(財) 広島県環境保健協会理事

(2) 調査委員 (11名)

吉田 敏臣	大阪府環境農林水産総合研究所所長
山村 博平	兵庫県立健康環境科学研究センター所長
高松 良文	和歌山県環境衛生研究センター所長
小倉 肇	岡山県環境保健センター所長
高垣 和子	広島県立総合技術研究所保健環境センター長
調 恒明	山口県環境保健センター所長
味上 正	徳島県保健環境センター所長
田川 和人	香川県環境保健研究センター所長
井上 博雄	愛媛県立衛生環境研究所所長
吉村 健清	福岡県保健環境研究所所長
野田 修一郎	大分県衛生環境研究センター所長

(3) 編集委員 (16名)

石野 哲	いであ(株) 大阪支社環境技術グループ長
井上 尚和	(株) 神戸製鋼所環境防災部次長
北村 弘行	元(社) 瀬戸内海環境保全協会参与
薦田 直紀	(財) 広島県環境保健協会地域活動支援センター長
合田 順一	香川県環境森林部環境管理課長
篠原 靖	関西電力(株) 環境室環境技術グループマネージャー
正賀 充	環境省水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室室長補佐
築谷 尚嗣	兵庫県農政環境部環境管理局水質課長
中野 武	兵庫県立健康環境科学研究センター水質環境部長
西田 正憲	奈良県立大学地域創造学部教授
橋詰 博樹	(財) 地球環境戦略研究機関A.P.N.センター長
久野 武	関西学院大学総合政策学部教授
藤井 正美	元神戸学院大学薬学部教授
眞鍋 武彦	(財) 国際エメックスセンター技術アドバイザー
湯浅 一郎	(独) 産業技術総合研究所沿岸海洋研究グループ長
鷺尾 圭司	京都精華大学人文学部教授

3. 事務局職員等 (21.3.31 現在)

常務理事	寺谷 保
------	------

顧問	櫻井 正昭（（財）自然公園財団専務理事）
顧問	小林 悦夫（（財）ひょうご環境創造協会顧問）
事務局長	（寺谷常務理事兼務）
参事兼業務課長	石川 潤一郎（神戸製鋼所㈱からの出向）
総務課長	旗谷 和行（兵庫県からの出向）
課長補佐	奥村 誠崇（いであ㈱からの出向）
主査	中井 純子
主査	守安 雅代
臨時職員	山本 千弘

## II 事業

### 1. 普及活動及び活動支援事業

(1) 平成20年度(第36回)瀬戸内海環境保全月間事業の展開（期間：20年6月1日～6月30日）

瀬戸内海関係地域住民並びに関係者に対して、広域的な瀬戸内海環境保全意識の高揚を図るため、会員並びに関係諸団体の協力を得て、広く公募した作品によりポスターを作成、これを掲示するとともに、パンフレットの配布などを行った。

- ・平成20年度瀬戸内海環境保全月間ポスターの公募最優秀作品  
内部清美さん（東京都）の作品

(2) 平成21年度(第37回)瀬戸内海環境保全月間ポスターの公募（期間：20年8月11日～12月12日）

21年度瀬戸内海環境保全月間に向けて、環境省、瀬戸内海環境保全知事・市長会議と連携してポスターの原画を募集した。

ポスター選定委員会の開催（平成21年2月16日）

応募数 子供部門： 79

一般部門：158 総数：237

(3) 瀬戸内海環境保全普及活動推進事業の実施

#### ① 瀬戸内海環境保全トレーニングプログラムの実施

新たに瀬戸内海の環境保全のための業務に従事することとなった会員団体職員を対象に研修会を開催した。

日時：平成20年10月14日～16日

場所：センチュリープラザホテル（徳島市）

講義：瀬戸内海の環境保全の歩みと再生方策

講師 広島大学名誉教授 松田 治

里海学—太く、長く、滑らかな物質循環—

講師 九州大学応用力学研究所教授 柳 哲雄

瀬戸内海沿岸海域での諸問題

講師 関西学院大学総合政策学部教授 久野 武

瀬戸内海を取り巻く課題（法律を中心に）

講師 環境省水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室室長補佐 正賀 充  
干潟埋立てを伴う事業における合意形成のためのミチゲーションへの一考察

講師 徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部教授 上月 康則  
現地研修

吉野川河口のレイスハンミョウ生息地ミチゲーション事業、自然干潟  
上勝町ゼロウェイスト活動等

班別討議・全体討議

参加人数：25名

## ②地区別普及活動推進事業の実施

瀬戸内海沿岸域自治体が主体となって地区別に学校等と協力し、環境教育・環境学習の観点から、子ども達（小・中学生）が実地に自然を観察しながら海辺や水辺の自然について理解を深めることができるよう、次の体験的学習を実施した。

- ・海辺、水辺教室等の実施
- ・子どもたちを対象とした体験的学習等の実施
- ・自然観察会等の実施
- ・ボランティア等の人材育成事業の実施

## (4)平成20年度瀬戸内海の環境保全に関する衛生団体合同研修会の開催

主催：瀬戸内海環境保全地区組織会議、（社）大阪エイフボランタリーネットワーク  
（社）瀬戸内海環境保全協会

日時：平成20年11月7日～8日

場所：大阪ガーデンパレス（大阪市）

基調講演：海ごみの現状～暮らしのごみが海を汚す～

講師 JEAN/クリーンアップ全国事務局代表 小島 あずさ

体験交流・意見交流：各府県市連合会の実践活動報告

- ①よりよい環境を後世に引き継ぐために（大阪エイフボランタリーネットワーク）
- ②三原市水域調査活動事業（三原市公衆衛生推進協議会）
- ③環境保全と荒廃した里山の活動（周東里山の会）
- ④金山川環境美化協議会の活動について（金山川環境美化協議会）

見学：関空2期空港島（藻場造成、緩傾斜護岸等環境配慮施設）

参加人数：100名

## (5)賛助会員による瀬戸内海環境保全事業の展開

①平成20年度瀬戸内海環境保全月間行事（期間：20年6月1日～6月30日）への積極的参加

- ・月間ポスター等の提示による普及啓発活動の実施
- ・月間中の環境行事の実施及び取りまとめ

②平成21年度瀬戸内海環境保全月間ポスター公募への協力

③総合誌「瀬戸内海」の配布と投稿

④賛助会員研修会（第1回）の開催

日時：平成20年9月30日

見学場所：ひょうご環境体験館、大型放射光施設 Spring8、兵庫県粒子線治療センター

太陽光発電や雨水・中水利用など様々なエコ的工夫を取り入れた環境学習体験施設と最先端技術施設の見学

参加人数：19名

⑤賛助会員研修会（第2回）の開催

日時：平成20年10月9日

講演：瀬戸内海における海洋ごみの問題と対策

（独）産業技術総合研究所中国センター シニアスタッフ 星加 章

見学場所：瀬戸内海大型水理模型、呉市海事歴史科学館（呉市）

瀬戸内海の環境改善に35年余り利用され、2010年3月に役目を終えようとしている世界最大級の水理模型と海事の歴史についての見学

参加人数：16名

(6)瀬戸内海スナメリ発見情報プロジェクト実践事業の展開

沿岸域住民の瀬戸内海に対する理解や関心を深め、自主的な取り組みを推進するための契機となるよう平成11年度から実施しているスナメリ発見情報プロジェクトを引き続き展開するとともに、公募したスナメリのマスコットイラスト及び愛称「ほのぼのん」を広く活用し、瀬戸内海の環境保全活動を行った。

(7)瀬戸内海再生に向けた取組みの展開

瀬戸内海の生物多様性の確保、水産資源の回復、美しい自然とふれあう機会の提供等の豊かで美しい瀬戸内海を取り戻すための施策の推進が総合的、計画的に図られるよう、瀬戸内海環境保全知事・市長会議等と連携して、次の取組みを進めた。

瀬戸内海再生の啓発用リーフレット、パンフレット等の配布

(8)瀬戸内海里海シンポジウムの開催

平成20年5月下旬に神戸市で開催された環境大臣会合の関連事業として、「瀬戸内海里海シンポジウム」を、瀬戸内海里海シンポジウム実行委員会の構成員として環境大臣会合等兵庫県推進協力委員会と共に開催した。

実行委員会：瀬戸内海環境保全知事・市長会議、（社）瀬戸内海環境保全協会

（財）国際エメックスセンター、兵庫県瀬戸内海環境保全連絡会

日時：平成20年5月21日

場所：兵庫県公館

趣旨：瀬戸内海を豊かで美しい里海として再生するため、新たな法整備をめざした活動や生物多様性の確保に向けた施策の展開など、様々な取組みが行われている。

そこで、このような取組事例について発表するとともに、瀬戸内海をはじめとする閉鎖性海域の再生に向けた意見交換を行い、我国のみならず、海外における環境優先社会の形成に向けた契機となることをめざして、瀬戸内海里海シンポジウムを開催する。

基調講演Ⅰ：ミレニアム生態系評価と日本における里山・里海サブ・グローバル評価

国連大学高等研究所所長 A. H. ザクリ

基調講演Ⅱ：オリーブ基金から見た瀬戸内海の環境の保全と再生について

建築家・東京大学名誉教授 安藤 忠雄

パネルディスカッション：閉鎖性海域の里海としての再生に向けて

コーディネーター：広島大学名誉教授・瀬戸内海研究会議会議長 松田 治

パネリスト：国連大学高等研究所所長 A. H. ザクリ

建築家・東京大学名誉教授 安藤 忠雄

奈良県立大学地域創造学部講師 井原 縁

広島大学大学院社会科学研究科教授 戸田 常一

京都大学フィールド科学教育研究センター教授 山下 洋

参加人数：305名

#### (9) 瀬戸内海における浜辺の自然・文化・歴史教室の開催

瀬戸内海の海岸で小・中学生とその親を対象に、その海岸の生物分布・特徴を調べると同時に、地域の持つ自然・文化・歴史特性を総合的に学び、瀬戸内海の環境保全の大切さを理解することを目的とした教室を開催した。

場所：瀬戸内海国立公園成ヶ島（洲本市）

日時：平成20年9月27日

内容：①国立公園成ヶ島を美しくする会の花野代表等を講師に、干潟での生物採取と観察

②自然の宝庫「淡路橋立・成ヶ島」の歴史の講話

参加人数：26名

#### (10) 瀬戸内海環境保全リーフレットの発行

瀬戸内海の環境保全の推進に資するため、環境教育テキスト「瀬戸内海とわたしたち」に里海概念を取り込んで、新しく瀬戸内海環境保全リーフレットを作成した。編集については、リーフレット編集委員会を設置して検討を行った。

#### (11) 各種環境保全事業への参加・協力

##### ①環境イベントへの参加・協力

- ・第五管区海上保安本部が中心となって実施している大阪湾クリーン作戦（期間：20年6月1日～6月30日）に協力し、ポスターの配布、ごみの回収等を行った。
- ・「森・川・海の再生～人と自然とのかかわり」をメインテーマに、兵庫県水質課、(財)国際エメック

スセンター、兵庫県瀬戸内海環境保全連絡会と合同で「ひょうごエコフェスティバル」（20年11月9日）に出展した。「森・川・海」のそれぞれのコーナーでは、木工クラフト、カニ釣り等体験的な催しを行った。

#### ②会員等主催事業の支援

瀬戸内海的环境保全の普及・広報活動に資するため、パネルの貸し出しなど、会員等が主催する各種環境保全事業の支援を行った。

#### ③環境NGO/NPOとの連携・支援

瀬戸内海的环境保全等に努める環境NGO/NPOが実施するイベント等に協力するなど連携・支援を行った。

- ・「第5回ほっといたらあかんやん！大阪湾フォーラム」（大阪湾見守りネット）への後援
- ・「第2回研究会・講演会 犬島貝塚の発掘2008」（犬島貝塚調査保護プロジェクトチーム）への後援

#### (12) K J B瀬戸内基金の管理・運営

瀬戸内海的环境保全等に努める環境NGO/NPOを支援するため、フィリップモリス ジャパン株式会社が提唱する「keep japan beautiful」の一環として、瀬戸内海地域における環境美化・保全活動に取り組む市民団体（NGO/NPO）等に対して、その活動や事業を助成・支援する目的を持って設立した「K J B (keep japan beautiful) 瀬戸内基金」の管理・運営業務を行った。

応募総数：50団体

採択総数：24団体

助成総額：3,920,000円

## 2. 指導・助成

各種環境保全活動事業に対する助成

漁業団体、環境衛生団体が実施する各種環境保全活動事業に対しその活動費用の一部を助成した。

## 3. 情報収集・発信事業

#### (1) 瀬戸内海研究・環境等情報ネットワークシステム（「せとうちネット」）の管理・運営

瀬戸内海に関する水質等環境情報や社会経済、文化・歴史等情報、各種調査研究成果等多様な情報の提供を目的として平成10年度に構築した「せとうちネット」の的確な管理・運営に努めるとともに、環境省の委託等により情報収集を行ない、データの追加・更新を行った。

#### (2) 総合誌「瀬戸内海」の発行及び配布

瀬戸内海の自然・社会・人文科学の総合誌「瀬戸内海」を次のとおり発行・配布した。

・発行回数：年4回

・平成20年 6月 第54号

・平成20年 9月 第55号

・平成21年 1月 第56号

- ・平成21年 3月 第57号
- ・総発行部数：9,000部

(3) 資料集「瀬戸内海的环境保全－平成20年度版－」の発行及び配布

瀬戸内海に関連する各種資料をとりまとめ、収録した資料集「瀬戸内海的环境保全－平成20年度版－」を発行・配布した。

(4) 行政担当者向け資料集の作成

国の関係省庁及び沿岸自治体の行政担当者が、瀬戸内海的环境保全・再生にかかる諸問題等行政ニーズについて、問題意識の共有を図るための資料集を作成した。

(5) 協会ホームページの充実

当協会の活動紹介及び環境情報等の発信に努めた。

#### 4. 調査・研究事業

(1) 平成20年度底質サンプル評価方法検討調査（環境省）

環境省からの請負業務として下記2つの検討を行った。

①底質サンプル評価方法検討調査 検討作業会

水質総量規制等による汚濁負荷量の削減により一定の水質の改善が見られるものの、未だに赤潮や貧酸素水塊の発生が見られる。このため、瀬戸内海において目標とすべき水質の検討及び水質汚濁メカニズムの解明により、今後の効果的な対策を検討する必要がある。これまでに実施してきた瀬戸内海環境情報基本調査で採取し、各環境研究機関で分担・保管している底泥試料（サンプルバンク試料）は、過去からの環境の変遷を知る上で貴重な試料である。これらの試料を分析することにより、瀬戸内海における底質環境の変化や有機汚濁物質と生物生息環境の長期的変化とその要因等を把握するため、周防灘を対象として調査を実施し、瀬戸内海における新たな環境保全・再生のあり方の検討を行うと共に、平成17年度から実施してきた調査の取りまとめとして底質環境の変化の総合評価を行った。

検討作業会：委員長 前広島県産業科学技術研究所副所長 塩沢 孝之

開催日：第1回 平成21年1月20日

第2回 平成21年2月17日

第3回 平成21年3月13日

②高度な栄養塩類管理に向けた検討会

瀬戸内海においては、昭和54年にCODの水質総量規制が開始され、平成13年にはその対象項目として窒素とりんが追加された。その結果、昭和40年代後半から50年代始めにかけて年間200件から300件程度発生していた赤潮については、それ以降減少したが、依然、年間100件程度発生しており、汚濁負荷量が削減され水質の改善が見られる海域でも、赤潮による漁業被害が引き続き発生する海域が存在する。一方で、栄養塩類の不足による海苔の色落ちの発生も指摘されている。

しかしながら、そのメカニズムが十分に分かっていないことから、瀬戸内海環境保全基本計画フォローアップ（中央環境審議会瀬戸内海部会平成20年6月）において、その解明に向けた総合的な調査研究を進めるとともに、特に窒素、りん的环境基準が達成されている海域においては、栄養塩類の管理について検討を進める必要があることとされた。

このことから、瀬戸内海において、生物生産力増強に資する高度な栄養塩類管理のあり方の検討を行った。

検討会：委員長 山口大学名誉教授 中西 弘

開催日：①の検討作業会開催後に同日開催

## (2)平成20年度里海の創生の支援に向けた検討調査（環境省）

閉鎖性海域においては、著しい汚濁は改善されたものの、水産資源を含む生態系の劣化が進んでいるため、21世紀環境立国戦略では、多様な魚介類等が息する自然の恵み豊かな「里海」の創生が、今後1、2年で重点的に着手すべき環境政策として明記されている。

環境省では、平成20年度より里海の創生を支援する事業を開始することとなり、下記の業務を行った。

### ①マニュアル策定に向けた長期的・総合的な実施計画の策定

里海創生モデル海域を選定しその取組を3ヶ年でマニュアルとして取りまとめるための総合的な実施計画を策定した。

### ②里海創生支援海域の選定と広報的な支援

沿岸生態系の回復、保全に関する取組を実施している海域を里海創生支援海域として選定した。また、選定された里海創生支援海域を支援するため、里海の創生に関する広報活動（シンポジウムの開催、パンフレットの作成等）を実施した。

#### 【里海創生支援海域の選定】

石川県：七尾湾里海創生プロジェクト

兵庫県：千種川河口干潟のアマモを活かした里海づくり（赤穂海岸）

長崎県：地域連携による環境学習のあり方検討事業（スナメリとともにくらす大村湾づくり）

大分県：豊前海・中津干潟のササヒビを活かした里海づくり

#### 【里海シンポジウムの開催】

里海シンポジウム in 志摩 平成21年1月31日 参加人数 180名

里海シンポジウム in 七尾湾 平成21年2月22日 参加人数 230名

里海シンポジウム in 赤穂 平成21年3月14日 参加人数 250名

### ③マニュアルの取りまとめ方針案の策定

里海創生支援海域における取組の成果を踏まえ、マニュアルを取りまとめるにあたっての方針案を策定した。

### ④里海創生支援検討会の設置・運営

本調査を実施するため、「里海創生支援検討会」を設置し、本業務を円滑に進めていく上で助言及び指導を得た。

検討会：委員長 生態工学研究所代表 須藤 隆一

- 第1回里海創生支援検討会（平成20年7月1日）
- 第2回里海創生支援検討会（平成20年8月7日）
- 第3回里海創生支援検討会（平成20年11月21日）
- 第4回里海創生支援検討会（平成21年3月12日）

(3) 海洋ごみ対策の確立に向けた情報支援システムの構築に関する研究

（独立行政法人産業技術総合研究所）

海岸漂着ごみによる景観の劣化、プラスチックごみの破片化による海洋汚染、生態系への悪影響等、海洋ごみ問題は深刻な状況にあり、早急に取り組むべき環境問題である。このため、環境省の地球環境保全等試験研究費を受けて、漂流・漂着数値モデルの構築・実験、GISによる空間解析によるごみの動態と総量把握、漂着・浮遊ごみのモニタリング調査、既存資料・情報の収集を行うなど、瀬戸内海での海洋ごみ対策の確立に向けて、（独）産業技術総合研究所、鹿児島大学、いであ（株）と引き続き共同研究（平成18～20年度）を行った。

当協会では、市民啓発及び情報の集約発信のためフォーラムの開催、インターネット・サイトで情報公開を行い、海洋ごみの抜本的対策に向けた政策提案をとりまとめた。また、市民によるモニタリングとして、指標漂着物調査を3回実施した。

海洋ごみフォーラム

テーマ：海のごみについて考えよう～どこから流れてくるの？どうすればいいの？

講演：①瀬戸内海における海面浮遊ごみ・海底堆積ごみの挙動特性

九州大学応用力学研究所教授 柳 哲雄

②海岸・河岸ごみの実態

鹿児島大学水産学部准教授 藤枝 繁

③海洋ごみの発生地域の推定

（独）産業技術総合研究所主任研究員 橋本 英資

④瀬戸内海のごみ問題の現状と対応について

環境省総合環境政策局総務課企画法令係長 飯野 暁

総合討論（円卓方式）：パネリスト、事例発表者、参加者等

第1回：平成20年11月15日（神戸市） 参加人数 62名

第2回：平成20年12月20日（高松市） 参加人数 82名

5. 瀬戸内海研究会議に対する支援・協力

瀬戸内海研究会議の事務局を担うとともに、研究会議が行う事業の運営推進を支援、協力した。

(1) 瀬戸内海研究会議事務局

瀬戸内海研究会議の事務局として、円滑な事務運営と会員との連絡調整を行うとともに、事業を適切、効率的に遂行した。

(2)「瀬戸内海研究フォーラムin福岡」の開催に対する支援・協力を行った。

テーマ：里海としての瀬戸内海とそれを支える文化力

日時：平成20年9月4日～5日

場所：ウェルとばた（福岡県北九州市）

参加者：延べ300名

## 6. 国際的な活動への参加と協力

(財)国際エメックスセンターが主催する第8回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS8）において、「瀬戸内海の海洋ごみ対策の確立に向けた研究」について発表及び広報を行った。

会議テーマ：河川集水域と河口域の調和

開催日：2008年10月27日～30日

開催場所：中国・上海市

## 7. その他関連事業

### (1) 国に対する要望

協会が実施する事業及び調査研究の拡充強化並びに本協会の運営への配慮等について国に要望した。

- 要望事項：1. 瀬戸内海環境保全・再生のための普及活動、環境教育事業及び参加型環境保全活動事業の推進
2. 瀬戸内海の環境データの収集とデータベース機能の充実
3. 瀬戸内海の沿岸域での良好な環境の保全、失われた環境の修復・創造に関する調査研究
4. 生物多様性の確保及び水産資源の回復、美しい自然とふれあう機会の提供等瀬戸内海を里海として再生するための調査研究
5. 瀬戸内海の汚濁メカニズムの解明と富栄養化防止に関する調査研究
6. 瀬戸内海の自然環境及び水環境保全並びに浮遊・漂着・海底ごみ等に関する調査研究
7. 瀬戸内海における有害化学物質等による環境影響に関する調査研究
8. 各種開発事業等に係る環境影響評価及び環境管理技術に関する調査研究
9. 瀬戸内海研究会議の調査研究及び教育活動

要望日：平成20年7月18日

要望先：環境省、財務省、国土交通省、水産庁

### (2) 瀬戸内海環境保全知事・市長会議との協調

瀬戸内海環境保全知事・市長会議と連携を密にし、協調して事業実施に当たった。

### (3) 賛助会員の加入促進

協会の目的に賛同する企業等の賛助会員加入の促進に努めた。